



蜂苑会役員あいさつ

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますね。今年は猛暑の夏から一転、彼岸すぎには、ぐっと気温も下がり、秋の気配を感じる時節になりました。気温変化で体調を崩さないように過ごしましょう！

《特集1》生徒会役員選挙立会演説会

9月24日（木）6校時に、新生徒会役員改選にともなう立会演説会・投開票が行われました。



◎開票の結果、候補者全員が信任されました◎

《特集2》レスリング部 大房くん、全国選抜大会に出場！！



9月24日（木）生徒会役員選挙立会演説会の前に、レスリング部の大房快聖くんの全国大会出場の選手壮行会が行われました。大房くんは10月9日（金）～11日（日）まで新潟県新潟市で行われる、第63回風間杯全国高等学校選抜大会に出場します。是非とも上位入賞目指して頑張ってください！！

《特集3》校庭散歩

1・2年生昇降口側の校舎中庭には、夏真っ盛りの花として有名な百日紅（さるすべり）があります。初夏から秋までの長い間鮮やかな紅色やピンク、白などの花を咲かせる花木です。庭や街路樹として植えて自宅や町のシンボルツリーとして楽しまれる花木でもあります。白くすべすべした幹がやわらかい印象で圧迫感がないところも魅力的です。



◎百日紅の花言葉

「雄弁」…木の外観に由来するものが「雄弁」。枝先に花が群生する姿が華やかで堂々としていることから。

他に「愛嬌」「不用意」の花言葉があります。

《特集4》図書館散歩 ～ 歴史時代小説特集 その2～

みなさんも歴史の裏側をのぞいてみませんか？ 歴史・・・教科書に載っている通史や人物、授業で習ったりするものだけになりがちです。歴史もまた表舞台に出てこない人々の歴史があります。そんな歴史の裏側をのぞいたような作品、さらに伝説や伝奇をテーマにした作品を紹介します。

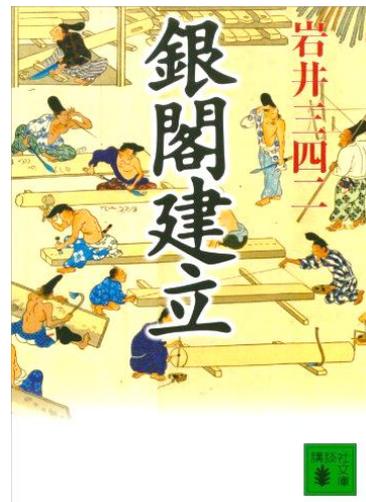
◎ 岩井三四二『銀閣建立』

～応仁の乱の後の荒れ果てた京都が舞台。足利義政（あしかが よしまさ）の命により東山に山荘・隠居所である「銀閣」を建築する無名の職人の姿を描く。

戦乱で荒廃していく時代の中で、不自由な暮らしを強いられる庶民をよそに、「上様」（前将軍・足利義政）は現世を疎（うと）んじ東山の山荘に籠もろうとする。銀閣建立のために、苦しい生活を余儀なくされる庶民の姿に疑問を抱きながらも、後世に残る仕事をしたいという、主人公の番匠（ばんじょう）・橋三郎右衛門の職人としての意地がそこにあった――。

本書の紹介文より

～室町末期、応仁の乱で疲弊した京。五年ぶりに都へ呼び戻された番匠・橋三郎右衛門は、公方御大工の父から、足利義政が隠居所として東山に山荘をつくることを聞かされる。同業者たちとの駆け引きや、ろうるさい上様の注文をしのぎつつ、棟梁として技の限りを注いだ、三郎右衛門の最上級の建物を造る闘いが始まった。～



次は現代推理・歴史小説がミックスした、ちょっとユニークで興味深い作品です。

◎ 高木彬光『成吉思汗（ジンギスカン）の秘密』

～源義経（みなもとの よしつね）と成吉思汗（ジンギスカン）が同一人物ではないか、という徳川時代から幾度も噂された謎を、名探偵・神津恭介（かみづ きょうすけ）が膨大な歴史資料をもとに追い、その大胆な仮説を、肯定的な立場から一つ一つ小さな推理を積み重ねて解き明かしていく――。

本書の紹介文より

～兄・頼朝に追われ奥州で非業の死を遂げたはずの源義経が、モンゴルに渡って成吉思汗となった？ 病に倒れた神津恭介の入院生活の退屈しのぎにと、友人・松下研三が提示した謎は、天才探偵の頭脳を刺激した！ 邪説としてしりぞけられてきた問題に、一つ一つ検証を重ね、論理的説明を加えていく神津の大胆な推理が導き出す歴史の真相とは？ 純然たるロジック（論理）で展開される歴史ミステリーの傑作！～



こんな伝奇物語はどうでしょうか？ 去年は平安建都（遷都）から1225年目の年でした。1993年（平成5年）平安建都1200年を記念して、毎日新聞朝刊で毎週日曜日の最終面に一年間に渡り連載され、「スーパー御伽草子（おとぎそうし）」として絶賛された作品です。

◎ 小池一夫『夢源氏剣祭文（ゆめげんじ つるぎのさいもん）』

～昔むかし茨木（いばらき）という名の鬼がおり、武者の渡辺綱（わたなべのつな）がその片腕を斬り落として持ち帰ると、彼の伯母に化けた鬼女茨木が腕を取り返しに来る。この伝説を基にした作品です。平安時代の有名な人物（本来の時代では同じ時代でないが）坂田金時（金太郎）、藤原純友、安倍晴明、藤原道長、「蜻蛉（かげろう）日記」を著した藤原道綱母（ふじわらのみちつなのはは）などが活躍する物語。

本書の紹介文より

～平安京建都から約百三十年後。棄都となった長岡京で、一人の少女が泣いていた。名は茨木（いばらき）。いま母と死別し、四歳にして天涯孤独。顔も知らない父「ふじわらのひでさと」を探しに平安京を目指して旅立った――。妖鬼の牙にかかり、「鬼」となるべき宿命を背負った少女。その幸福を求める旅路を縦軸に、金太郎、藤原純友、安倍晴明、藤原道長、「蜻蛉日記」の著者・藤原道綱母などの活躍が物語を彩ってゆく――

